

平成28年度 大阪府立芦間高等学校 第1回 学校協議会

日時 平成28年7月21日(木) 午後2時00分～午後4時50分
場所 本校4階 図書室

構成員

＜協議会委員＞	
笹山 幸子	元府立高等学校長
竹本 剛	P T A会長
藤田 俊和	後援会会長
松本 紀容子	守口市立八雲中学校 校長
宮坂 政宏	週刊教育P R O 編集委員
山崎 裕也	スクールI E (学習塾) 京阪エリアマネージャー
＜事務局＞	
東崎 浩	教頭
久森 雅代	事務長
甲斐 徹	首席 兼 情報部長
辻 真人	首席 兼 総務文化部長
塩崎 靖子	指導教諭 兼 教務主任
斉藤 衛	生徒指導主事
阿野 高明	進路指導主事
楨田 純子	保健主事
平尾 映子	第1学年主任
岸本千都子	第2学年主任
飯尾 勝紀	第3学年主任
水嶋 育美 (大西利男)	支援教育コーディネーター 兼 共生推進委員長 (校長)



配付資料

○資料01	プレゼン〔芦間高校の紹介〕
○資料02	ペーパーとプレゼン〔H28学校経営計画〕
○資料03・04	「産社」及び「総学」の関連資料
○資料05	H28大学入試等実績
○資料06	「勉強」に関するアンケート
○資料07	遅刻者数推移、他校の遅刻者数減少対策実践
○資料08	「広報」及び「入学者選抜」の関連資料
○資料09	視察報告

内 容

- (1) 学校長挨拶
 - (2) 委員紹介及び事務局紹介
 - (3) 会長選出 …………… 委員互選により竹本委員様を会長に選出
 - (4) 会長挨拶
 - (5) 報告 [[0] 芦間高校の特色及び総合学科について
[1] 平成28年度学校経営計画とその進捗状況について
[2] 参考となる他校の取組みについて
- 芦間高校の特色及び総合学科について
- ・アクティブ・ラーニングのパイオニア・・・授業内容の充実、授業形態の工夫
 - ・キャリア教育のトップランナー・・・「産業社会と人間」等、キャリア教育の充実
 - ・時代のニーズに適合している総合学科高校は府内で増加傾向
 - ・進路指導の充実、国際交流の取組み、共生推進教室の取組み
- 平成28年度学校経営計画とその進捗状況について
- ・生徒の確かな学力の育成及び教員の授業力の向上
 - ・夢と志を育むためのキャリア教育及び確実な進路実現につながる進路指導の充実
 - ・安全・安心で居心地のよい学校環境づくり、カウンセリングマインドを伴った生徒指導の徹底、生徒の生活規律・自己管理の徹底
 - ・広報活動の充実

- 「勉強」に関するアンケート〔新規〕の集計結果
 - ・学校の授業を受けるときの姿勢について（10項目）
 - ・授業以外の学習時間（早朝・放課後の講習や自習、塾等での学習時間を含む）
 1. 平日（調査前1週間を除く）
 2. 土曜日日曜日（調査前1週間を除く）
 3. 調査前1週間の平日
 4. 調査前1週間の土曜日日曜日祝日

○その他

- ・参考となる他校の取組みについて・・・遅刻者数減少に資するスタンプラリー方式
- ・入試制度の変更に伴う志願者数等の変化について
- ・視察報告・・・岐阜県立可児高等学校〔AL推進、ICT活用、改革推進部設置等〕

- (6) 協議 [[1]平成28年度学校経営計画に係る取組みの推進について
[2]参考となる他校の取組みを活かす方策について]

＜「勉強」に関するアンケート〔新規〕の集計結果を中心に議論＞

- 委員：「授業中、私語、居眠りや他教科の予習・宿題などはしていない。」という設問は、授業中に集中しているかどうかを問うている。その点では、1年生の結果がやや芳しくない。理解できていないところで躓きがあって、授業についていけなくなっているのではないか。1対1の学習支援などでケアをして躓きを発見できたら、一つの対応策になる。
- 委員：分析において大事なことは、教員側のアクティブ・ラーニング的な視点が必要だということ。アンケートを見て、先生が個人としてどう考えるか。そして、それを踏まえて教科や学年で話し合って意見交換をする。そして、それを踏まえて職員会議や校内研修で意見交換をすると学校全体のものになり、次回のアンケートを実施するときに、教員が生徒の実態をより正確に把握することができる。
- 委員：アクティブ・ラーニングは主体性の意味を理解させて授業をするべきであるが、多くの生徒がそのことに気付いていないように思う。きっかけがあれば、やる気が出ると思う。
- 委員：生徒へのフィードバックという点においては、生徒が勉強時間についての全体の状況を知り、自分がどのような位置にいるのかを知ることが大切なので、適切に情報提供してほしい。
- 委員：分析については管理職の方もされると思うが、先生方が個々にどのように把握するかということも必要だと思う。
- 委員：アンケートの活用の仕方としては、学習に対してどう意欲的に取り組んでいるか、どこに課題があるのか、ということ进行分析し、現状を踏まえて、その改善のために、授業の組み立て方をどう変えていったらいいのかを考えることが大切である。
- 委員：自分が選んだ選択科目なら意欲的に取り組んでいるが、必修科目ならそうはいかない、という生徒の意識もあるだろうし、授業づくりの工夫と生徒たちの意欲の両面を意識しながら、先生方が結果を分析し、その内容を共有して取り組んでいけば、アンケート結果をもっと活用できていくのではないかなと思う。
- 委員：「意欲」に関する項目の結果が低く出ている。なぜ、意欲がないのか、学びに向かう姿勢をつくるにはどうしたらいいのか、ということを考えていかなければいけない。学習時間が少ないのはなぜなのか、「自分自身ではたくさん勉強しているつもりではあるけれど・・・」なのか、という部分も見ていけばいいのではないかな。関心・意欲・態度がなければ、自主的な学びもなければ協働的な学びもない。行き着くところは内面化・定着化。生徒は、内面化・定着化のために関心を持って学習する。「学ぶ姿勢を身に付ける」「意欲的に学ぶ」という学びのプロセスがあると思うので、内面化・定着化のためにという目的を持ってもいいのではないかな。
- 委員：「授業中、なぜそういう答えになるのか、その理由や解き方を理解しようとしている。」「授業中、先生が板書をしなくても、大切だと思ったことは自分なりにノートに書き込んでいる。」「授業中、自分が間違えていたところに気付いたり、話の内容について新しい発見をしたりして、なるほどと思うことがある。」の結果がやや芳しくないのが気になる。進学に特化した総合学科と謳っている以上、ここは改善課題の部分である。2年生の内容は、1年生の内容と比べてかなり難しいと思われるので、そこをどう高めていくか、改善していく必要がある。
- 委員：設問「授業外の学習時間」については、学校外での学習時間なのか、自主的な学習時間なのかをはっきりさせた方がいい。自主的な学習の時間を知りたいのであれば、塾などの時間を省いてもいいのではないかな。

- 委員：総合学科は自分がやりたいことを選択してできる学校なので、もう少し意欲のある生徒が多いと思っていた。
- 委員：設問がややアバウトすぎるので、細分化が必要ではないだろうか。また、家庭の状況を問う設問を入れてもよいのではないか。
- 委員：この結果を見て、中学生を送り出す側としては、自分が選んだ学校なのだから、意欲的に学ぶ意識を身に付けて送り出さなければいけないと改めて感じている。アンケート結果を批判的に捉えずに、どのように改善していけば生徒たちが意欲的に取り組めるかということについて先生方で共有することが一番いいことではないかと思う。
- 委員：別途実施している授業アンケートとリンクさせると、授業を変えていけるような分析ができるのではないかと思う。
- 事務局：この「『勉強』に関するアンケート」は、授業アンケートとは重ならないような内容になるよう意識して設問を工夫したつもりである。
- 委員：例えば、予習・復習している生徒は授業に必要なものを用意している率が高いし、そうでない生徒はそうではない、というようなことがはっきり出てくると思う。そこで初めて、そのような生徒にどのような対応をしたらいいのか、ということが議論できるのである。
- 委員：アンケートの設計として、学校教育自己診断等、他のアンケートで把握できないものをどういうふうに把握しようとしているのかということが大切。アンケートというものは把握しようと思うものしか把握できないので、そういう観点で設計していく必要がある。
- 委員：自主的な学びができているのか、協働的な学びができているのかを知りたいということで実施しているのかということが、分析の際に必要な要素になってくる。出てきた要素・因子ごとに分析すると分析しやすい。小学校・中学校でも実施しているが、調査・分析のフィードバックをしっかりと行っている学校は学力が高い。分析したものをフィードバックしていくことに力を入れていけばいい。
- 事務局：この「『勉強』に関するアンケート」は新規のものとして実施したが、様々なご意見を頂戴し、ありがたい。さらなる改善・工夫を行って、活用できるようにしていきたい。

<学校経営計画全般について、授業改善について>

- 委員：学校経営計画を聞かせてもらおうと、中学校とほぼ同じ課題を持ちながら取り組んでおられることがよく分かった。
- 委員：中学校でも、子どもたちを意欲的に授業に向かわせるためにどのように工夫するかどのように授業を組み立てていくか、という観点で取り組んでいる。
- 委員：小学校・中学校で本来付けておかなければいけない力、学習に対する意欲や分かりたいとか知りたいと思う気持ち、わかる・できるという成就感を9年間の中で付けて高校へつなげていかなければいけないという使命を持ちながらやっている。社会が変化していく中で、未知の状況に出会ったときに、対応できる人材を学校教育の中で育てていかなければいけない。ここで問われていることは、中学校で付けておいてやらなければならないことだと思う。

<遅刻者数減少対策について>

- 委員：本中学校では、遅刻はほとんどない。保護者の意識もあるだろうと思うが、特別な遅刻指導としては、朝の校門指導のみ。予鈴までに勉強の用意をしようという当たり前の状況の中では遅刻はしない。遅刻が2回・3回となれば、家庭に連絡を入れ、なぜ遅れたかということと一緒に考え、遅れないためにすべきことを確認し、次の日に遅れずに来たら褒める。地道なことしかしていない。
- 事務局：他校の実践事例について、ご意見をお願いしたい。
- 委員：他校の実践事例としてのスタンプラリーは効果的である。用紙を持って何人もの先生のところを周って、それらの先生から話を聞く中で生徒に気付きが生まれると思う。
- 委員：ある高校では、遅刻の激減とともに成績が上がった。遅刻をした生徒を放課後残して理由等をB5用紙にぎっしりと書かせた。これが続くと、生徒はその作業が嫌になり、遅刻をしなくなった。先生方の負担もあるが、集団の中で規律を守らせたいという先生方の指導の目的と放課後の指導をきっかけに、生徒との関係づくりができ、指導しやすくなった。

- 委員：ある高校では、遅刻をすると、先生と一緒に学校の掃除をした。学校がどんどんきれいになった。また、先生と掃除をすることが楽しみになっていた。
- 委員：朝学を取り入れた。朝10分のモジュール授業で英語のリスニングを行った。遅刻をすると、リスニングの授業を受けられないので、早めに登校するようになった。
- 委員：他校の実践をうまく取り入れて、その学校にふさわしい方法で実施すればいい。
- 委員：遅刻を減らすには、学校へ行く価値をどうつくっていくかが課題である。
- 委員：ある学校では、校門を入ったところに遅刻者数の表示がある。その学校は、始業時間が早い。規律の意味を生徒が理解している。その学校では、朝学で言語活動に力を入れており、それが自分の力を伸ばすのに役立つことを生徒が自覚している。遅刻を減らすには、学校へ学びに行く価値をどう創造していくかが大切。
- 委員：早く来ることが自分のためになるということを訴えかけていくことと、ペナルティーを課すこと、その両方がないと解決できない。また、ペナルティーを課すことも、生徒のためになるようなものでないといけない。生徒にプレッシャーをかけないと、毎回遅刻する生徒の改善は厳しい。
- 委員：遅刻するのは、小学校・中学校からの習慣。家庭との連携が必要。また、現1年生は先生が5分前行動をしようと、入学式の時分から指導している。そういう取組みもいいと思う。
- 事務局：他校の多くの実践事例について紹介していただいた。府教育庁は、生徒指導上の諸課題の克服のための実践事例報告会を増やしている。なかなか現状を打破できない場合は、他校に学ぶ姿勢が大切だということを示唆している。改めて他校の実践を意識した改革を考えたい。

<広報活動の充実について、志願者の獲得について>

- 事務局：北河内地域に、本校以外に総合学科高校が新たに誕生する。志願動向が気になるところである。
- 委員：新たな総合学科高校とは間違いなく競合すると思う。
- 委員：肌で感じているところでは、その高校は、イベントや行事で気に入ってもらっている人気校である。イベントに参加した生徒は、楽しそうと言っている。芦間高校は、イベントで対抗するのか、別のアプローチで生徒を獲得していくのか、そのような判断が重要である。
- 事務局：普通科総合選択制の高校が後期選抜に回った際、多くの高校が、いわゆる「埋没」したと言われているが、その高校は決して埋没せず、存在感を維持している。
- 事務局：そのこととは別に、総合学科というものが、なかなか理解されていないという現状がある。総合学科を理解してもらおうという、原点に戻って広報活動をしていかなければいけない。
- 委員：芦間高校は大学進学の実績もあるので、進学を考えている生徒は芦間高校を選んでいるというイメージはある。
- 委員：中学校での進学説明会に参加したが、中学校では総合学科についての説明はあまりなかった。だから、総合学科について自分たちで調べた。その前に、妹の長男が芦間高校に来ていた。それで話を聞いて、自分で科目を選べるということで芦間高校に決めた。
- 委員：そういう口コミがありがたいと思う。
- 委員：「この進路をめざしている生徒は、こんな科目を取りましたよ。」「普通科とは、こんなふうに違いますよ。」というような説明をすれば、総合学科の魅力が理解してもらえらると思う。
- 事務局：確かにそういうことを交えて説明するとよく理解してもらえらるが、外部の説明会では総合学科の魅力を知らずに素通りしていく方が多い。だから、できるだけ引き止めて話をさせてもらっている。

(7) 報告〔教科書の選定作業について〕

○教科書の採択の手續きと、採択のポイント等について説明。

(8) 事務連絡

○第2回は、2学期中後半の土曜日に実施予定。詳細については、後日に連絡させていただく。

